

風車

紀州の歴史と文化の風

文化財センター季刊情報誌【かざぐるま】

2019 夏号 **87**

公益財団法人 和歌山県文化財センター

特集 和歌山城三の丸の発掘調査

和歌山城三の丸の
発掘調査風景
(北側から)



特集 和歌山城三の丸の発掘調査

はじめに

和歌山城三の丸の発掘調査は、和歌山城の北側に位置する和歌山市立伏虎中学校の跡地に和歌山県立医科大学薬学部が新築されることに起因します。中学校跡地は道路を挟んで北敷地と南敷地に分かれ、北敷地と南敷地の北側には医科大学薬学部が、南敷地の南側には市民会館（仮称）市民文化交流センターが建築されます。

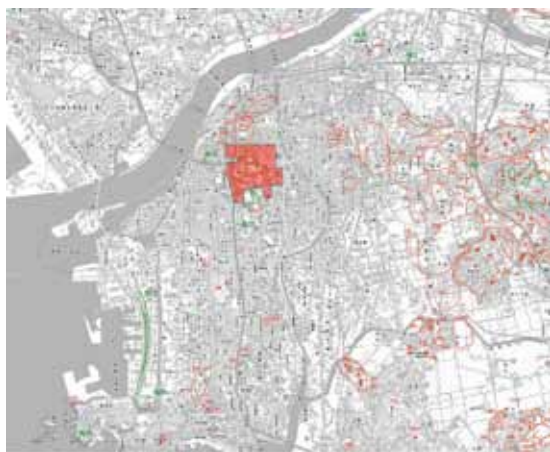


図1 和歌山城跡位置図



図2 調査区位置図

和歌山城は、紀の川の河口域を占める和歌山平野の中ほどに位置し、独立丘陵の岡山（虎伏山）を中心と築かれた平山城です。その構造は、標高40～50mの岡上に天守と本丸を置き、その麓に内堀などで囲まれた二の丸、西の丸、砂の丸、南の丸を配しています。ま

調査は、平成29年11月から平成31年1月の期間で実施しました。調査面積は約4,200㎡で、調査区は1～4区の4区画に分かれ、南敷地が1・2区、北敷地が3・4区で、それぞれの敷地で反転して調査を行いました。調査成果の一部は、風車82号で紹介しましたが、今回、総括する形で紹介します。

和歌山城の位置と環境

た、城の北から東にかけては内堀と外堀に囲まれた三の丸を置いています。

和歌山城の天守・本丸・二の丸の中枢部分とそれらを囲む内堀までの範囲は、昭和6年に国指定史跡に指定されており、およそ三の丸と外堀の範囲については、周知の埋蔵文化財包蔵地「和歌山城跡」となっています。和歌山城は、羽柴秀吉の紀州攻めの後、秀吉によって築かれ、16世紀末頃には桑山氏が城代を務め、江戸時代初期には浅野家の、それ以後は紀州徳川家の居城でした。調査区が位置する三の丸は、江戸時代には家臣の屋敷地となっていました。

発掘調査の成果

調査区付近の標高は約5mで、地表下約4m余りまで掘り下げて調査しました。調査の対象となる遺構面は9面で、江戸時代が4面、織豊期を含む中世以前が5面となっていますが、実際はそれ以上の遺構面が存在しています。基本的な層序は、北敷地・南敷地ともほぼ同じですが、各層位の厚さは各所で異なり、現地表面の標高についても、南側に比べ北側がかなり低くなっています。層序は、旧中学校および近代以降の造成土の下に江戸時代の

屋敷地の面があり、その下位は自然（風成）堆積した砂層下に16世紀末頃の織豊期の遺構面、更に下は自然（氾濫）堆積した砂層となります。砂層以下では数時期以上の中世の耕作面が確認でき、その下部には古代・古墳時代の遺構面が存在するなど、江戸時代だけではなく、それ以前の遺構なども多く見つかっています。

江戸時代

江戸時代の屋敷地は度重なる嵩上げをおこなっています。第1遺構面は幕末以降、第2遺構面は18世紀から幕末、第3遺構面は17世紀から18世紀、第4遺構面は17世紀で、調査区南西側には存在しませんが、4面が17世紀初頭と判断しています。各面で検出した遺構は、浅野家・紀州徳川家の家臣の屋敷地に伴うもので、土塀基礎や柵、礎石建物、据石を伴う掘立柱建物、石積み排水溝・井戸・塵芥処理穴（ごみ穴）・埋桶・溜桝・地下式倉庫・蹲踞（水琴窟）・竈などがあります。なかでも、井戸は約50基検出しており、屋敷地内にいくつもの井戸を持ち、また屋敷地を嵩上げすることにより井戸を掘削していたことが窺えます。これらの井戸には瓦積み・石積み・桶・曲物・素掘りなどあり、種類が豊富です。

1区で検出した地下式倉庫は石積みで、か



写真1 3区 江戸時代の屋敷地（上空から）

なり破壊されてはいますが、長さ5m、幅2mあります。使用していた石材には城の石垣に使用するような大きなものが多く、矢穴や刻印が認められます。4区で検出した半地下式の竈は2基並立するもので、2基とも直径約0.85m、深さ0.7mと大型のもですが、よく似た構造の竈が兵庫県伊丹郷遺跡、姫路城下町遺跡などで見つかっています。大型の竈は炊飯用の竈とは異なり、大量の湯を沸かすのに利用されたと考えられており、兵庫県で見つかったいる竈は、酒造りや醤油造りに利



写真3 4区 半地下式竈（北西から）



写真2 1区 地下式倉庫（東から）

用されたと評価されています。また、3区の井戸から出土している大型の石臼は、直径58cm、高さ30cmあり、一人では回すことができない大きさです。大型石臼の利用方法については、民俗例などから火薬製造を挙げることができ、民衆例などから火薬製造を挙げることができ、屋敷地内で火薬製造は考えにくく、他の品物の製造に使われたと考えられます。これらの竈・石臼は、その規模や大きさから日常生活に使うものでないことから、屋敷内の生産作業について文献史料も含め検討する必要があります。



写真4 4区 鳥籠出土状況

土坑には、塵芥処理穴（ごみ穴）と考えられる大型の土坑が多くありますが、それらの中に木製品を多量に廃棄した土坑が複数あります。深く掘削されたことで、常時水分があり、密封された状態であったことから、良好に木製品が遺存したもので、これらには漆碗や下駄・箸・折敷^{おしき}・曲物、荷札、刷毛、槌などの他に、鳥籠や茶筌^{ちやせん}など通常の発掘調査では出土しないような製品まであります。土器類以外にも、これらの木製品からも屋敷地内の生活の様子を窺うことができます。

織豊期

風成堆積した砂層下の第5遺構面は複数面存在し、下位の面を第5面としています。これらの面で検出した大溝は、1・2区から3・4区を縦断するように北北西―南南東方向に延び、4区付近で西方に折れていることが明らかになっています。幅約8m、深さ約2mの規模で、土層の堆積からも水が流れた状況でもないこと、壁の立ち上がりが急であることから織豊期の城下町を区画する堀であった可能性があります。第5遺構面が形成された時期に掘削され、第5遺構面の時期も存在していたことになりませんが、第5遺構面では、大溝を境に東側で井戸や土坑、大溝より西側で畠を検出しています。また、第5遺構面で

は、大溝の西側だけでなく東側も畠となっており、大溝より東側の土地利用が変化していることが窺えます。第5遺構面上の砂は、調査区付近を含め和歌山城周辺に広く厚く堆積して砂丘を形成していることが、和歌山市が行った発掘調査などで明らかになっています



写真5 織豊期の大溝と畠（上空から）

す。第5遺構面の時期が、出土遺物から16世紀末頃であり、砂層の上面が17世紀初頭頃であることから江戸時代の直前あるいはごく初期に一気に砂の堆積があったことになり、和歌山城下町が桑山期から浅野期にかけて連続と続くのではなく、砂が厚く堆積する期間の間断期があり、更に、この時期大きく地形が変化していることが窺えます。地形変化をもたらしただ原因については、大溝から西の海浜部が桑山期には開発されておらず松等が生い茂っていたものが、江戸時代になって城下町形成によって大規模に松等の防風林の伐開が行われたことによるもので、短期間に一気に砂丘が形成されたと推定されます。

室町時代以前

古代から中世にかけては、耕作に伴う鋤溝や水路と考えられる溝や水田畦畔を検出しており、水田耕作などの生産域であったことが窺えます。ただ、東側に限れば、井戸が検出されていること、西側に比べ遺物が多く出土していることなどから、直近に集落があったことが想像できます。

畦畔や溝・鋤溝の方向、すなわち地割の方向は、江戸時代以降の町割りの方向が正方位なに対して南北軸がやや西偏しています。この方向は、JR和歌山駅東方の水田地割と

ほぼ同じ方向で、規則性が窺えるものの、畦畔には弧状に伸びているものがあり、また、小区画の水田も存在することから条里じょうりに則り整然と作られた水田区画ではなかった可能性があります。遺物のなかで特筆できるものとして古代の蓮華れんげ文軒丸瓦があり、付近に文献などには登場しない寺あるいは官衙かんが(役所)が存在した可能性があります。

調査では、散発的に弥生時代の土器や石鏃・サヌカイト剥片などが出土していますが、4区の第9遺構面において古墳時代の溝の下部で、弥生時代中期と考えられる溝を検出しま



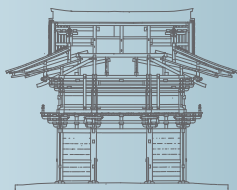
写真6 1区出土の古代瓦

した。規模は幅2.5～3.5m、深さ約0.6mあり、一直線に延びることや自然流路に見られるような流れ堆積がないことから、水田耕作に伴う水路の用途が考えられます。この面の標高が1m未満であるものの、和歌山城跡周辺においても弥生時代中期頃にはすでに開発され、直近に集落が営まれていたと考えられます。

(川崎雅史)



写真7 4区 弥生時代の水路



和歌山県指定文化財 地蔵堂の修理を終えて

地蔵堂の修理は平成三十一年三月に無事終了しました。前々号の短信でお約束したとおり、この修理から分かったことをお伝えします。

保存修理は、右(南)に大きく傾いていた建物を建て起こし、不陸調整、礎石の据え直し、縁や建具の補修を行いました。

修理前は礎石が土間の上に露出し、礎石と柱の間にモルタルが詰められていました。柱が腐ったので柱の下部を切り取り、礎石を持ち上げていたと思いましたが、しかし、柱の下は腐っておらず、礎石の凸凹とピタリと一致しました。



地蔵堂（竣工正面）



柱に合わせて礎石を据え付け、周りをコンクリートで固めた。

北側は岩盤、南側に盛り土をして整地した基壇に礎石が据えられて堂が建てられていたと考えました。長い年月の間に雨水などで盛り土が流れ出し、今のように礎石が露出して建物が傾いたと考えられます。でも、建物が傾きだしたのはかなり古く、江戸時代以前に用いられていた和釘が使われていた押入は、建て起こした後では元の位置に納まりませんでした。江戸時代にはすでに傾いていたようです。

堂の床を支える大引は柱を貫通しており、根太も打ち替えはなく床組も建築当初のものであることがわかりました。その根太に別の建物の桁などの部材が転用されていることが確認できました。桁に残された

柱の痕跡の間隔は今の建物と同じです。須弥壇前の根太は円柱に当たらないように丸く練られています。根太の反対側にも練られた痕があり間隔も今の練り形と同じです。今の堂が建てられる前に、同じ規模の堂があった可能性もあります。



地蔵堂の床組（桁などの転用材が見られる）

基壇を復原することなく礎石を支えるコンクリートの基礎が丸見えですが、修理は無事に完成し、五月二日に竣工式が行

われました。このお堂に多くの人が集まったのを初めて見ました。過疎化に悩む集落ですが、このお堂が末永く護られていくことを祈っております。

（寺本就一）

瓦のはなし ① 鬼瓦―改元をめぐる考察―

有田市の円満寺仏殿(大日堂)には「天下」と「太平」の額飾りをあしらった鬼瓦が据えられています。側面にはヘラで、泉州谷川(大阪府岬町)の瓦師・七兵衛の名と、「延宝十年/戌ノ正月」と年号が書かれています。ちなみに「延宝」は延宝9年(一六八一)9月に「天和」に改元されています。今年5月、平成から令和に改元されましたが、テレビやネットで瞬時に伝わる現在とは違い、改元されたことが七兵衛に伝わるには時間がかかったのかもしれませんが。あるいは製作は改元の9月より前であったが、予定される竣工年月を前もって書いたのかもしれない。

さらに驚くべき事に、ほぼ同じデザインの七兵衛の銘がある鬼瓦で、同じく「延宝十年/戌ノ正月」のものが浄国寺鐘楼(海南市)にも据えられていました。偶然、円満寺と浄国寺の鬼瓦が同時期に注文されたのでしょうか?それとも、定番の既製品として製作されていた鬼瓦なのでしょう?円満寺と浄国寺には他にも七兵衛が製作した瓦が保管されており、今後、建物や文献資料などを併せて調査することによって、当時の瓦製作状況や流通事情などが明らかになるかもしれません。(松井美香)



浄国寺鬼瓦 (太平)



浄国寺鬼瓦 (天下)



円満寺鬼瓦 (太平)



円満寺鬼瓦 (天下)

きのくに歴史小話

～きのくにれきしこぼなし～

埋蔵文化財課

新任のご挨拶

はじめまして、本年四月から和歌山県文化財センターに採用されました、田之上裕子と申します。

新任当初から、「和歌山県内埋蔵文化財調査成果展 紀州のあゆみ」を担当していますが、慣れない展示準備や書類作成などで悪戦苦闘の毎日です。何もわからない不安の中で、先輩方の手助けや助言により、和歌山県立紀伊風土記の丘での展示のオープンを無事に迎えることができ、感動するとともに安堵しました。

この成果展では、和歌山県内出土のさまざまな時代や時期の遺物に触れる、よい機会を与えてもらえたと思います。

近畿や西日本を中心に発掘調査を行なってきましたが、和歌山県内での発掘調査の経験が少なく、文化財センターの一員として職務を全うできるよう、これから学ぶべきことが多いと思っています。

(田之上裕子)



催し物案内 和歌山県内の文化財関係イベント情報 (2019年夏～2019年秋)

和歌山県文化財センター

- 「歩いて知るきのくに歴史探訪 ～和歌山城とその周辺の文化財を巡る～」(仮)
2019年10月26日(土)

和歌山県立紀伊風土記の丘

- 夏期企画展 「すき・すき・からすき ～田んぼにお水が入るまで～」
2019年7月20日(土)～9月1日(日)
- 秋期特別展 「開かれた棺 ―紀伊の横穴式石室と黄泉の世界―」
2019年9月28日(土)～12月1日(日)

和歌山県立博物館

- 夏休み企画展 「南葵音楽文庫の至宝」 2019年7月13日(土)～8月25日(日)
- 企画展 「真景図―旅する画家が見た風景―」 2019年8月31日(土)～10月6日(日)

和歌山市立博物館

- 企画展 「没後20年 中畑艸人(そうじん)」 2019年7月13日(土)～8月12日(月)
- 特別展 「雑賀衆と鷲ノ森遺跡―紀州の戦国―」 2019年8月24日(土)～9月29日(日)

高野山霊宝館

- 大宝蔵展 「高野山の名宝 ―きらめく漆工の美―」 2019年7月20日(土)～10月6日(日)

掲載内容は変更される可能性があります。詳細は各施設へお問い合わせください。

目次

- 1 表紙「和歌山城三の丸の発掘調査風景(北側から)」
- 2 特集「和歌山城三の丸の発掘調査」
- 6 文化財建造物課 短信「和歌山県指定文化財地蔵堂の修理を終えて」
- 7 きのくに歴史小話「瓦のはなし①鬼瓦―改元をめぐる考察―」
「埋蔵文化財課 新任のご挨拶」
- 8 催し物案内



風車87 (2019・夏号)

令和元年7月31日

(公財)和歌山県文化財センター

URL <http://www.wabunse.or.jp/>

(公財)和歌山県文化財センター

【事務局】

〒640-8301 和歌山市岩橋1263番地の1

TEL 073-472-3710

FAX 073-474-2270

kanri-2@wabunse.or.jp